

## 佳 作

「心に残ったこと」

登米市立中田中学校 三年 熊谷 くまがい 玲美 れみ

「ありがとう」このたった五文字がもつとたくさんの人々に使われればいいのに。私はある体験を通してそんなことを考えるようになりました。

ある日、私が仙台へ病院に行った時のことです。その日は一人だったため、目的地の病院まではもちろんのこと車は使わず公共交通機関を乗りついで移動でした。まず、自宅から仙台まで高速バスに一時間程乗り、その後仙台駅で降り病院行きのバスに乗る予定でした。しかし、その日はなぜか休日でもないのに混雑していて時間通りにバスには乗れず困ってしまいました。するとそこにいた一人の年配の女性が困っていた私にあめを手渡してくれました。今思えば、少しでも私の気を楽しませるためしてくれたことだったのでしよう。しかし、急だったので私は状況が飲み込めずそのあめを受け取りただ頭をさげただけでした。本来そこでとるべき行動は、「大丈夫です。」と遠慮するか、「ありがとうございます。」と言って受け取るか。誰しもが思うはずです。しかし、その時の私みたいに困っている時にあんなに優しい心配りをしてこんな言葉は出てこないはずです。

やっとバスに乗ることができた私はたまたま一つだけ誰も座っていないイスに腰を降ろし病院まで行くところでした。

ところが、私がスッと反射的に横を向いた時のこと。そこには先程の年配の女性が手すりに掴まりながら、立っていました。バスが右に曲がった時その女性が倒れそうになりました。しかし、なんとか耐えました。私はそんな辛そうにしていた女性に席を譲ろうとしました。しかし私の前に座っていた若い男性が自分よりも先にその女性に、「どうぞ、ここに座ってください。」と席を譲ったのです。

ここまでは、一般常識として普通に想像できます。しかし、その後の二人の会話が感動的でした。

席を譲ってもらった女性が、

「いいんです。座って下さい。」

と言いました。それに対し男性が、

「なにを言っているんです。困っている人を助けなくて放っておくなんて人間として恥です。」

そんなことを口にしたのです。その言葉を聞いた女性は表情が明るくなり微笑みながら、

「お言葉に甘えて、座らせていただきます。あなたのような親切な方に出会えて良かった。ありがとう。」

私は心に何か突き刺さるのを感じました。女性からあめをもらったあの時の私は、「ありがとう」このたった五文字すら言えなかったのにあの女性は、その言葉にさらに付け加えてお礼を伝えたのです。その時私は自分なんて情けないと思いました。その後私は前に座っていた女性に、

「先程はあめをいただきありがとうございます。」  
と伝えました。すると女性は、

「いえいえ。」

と笑いながら言ってきました。私は心が落ちついてくるのを感じました。

日常生活を送っていくうえで人から感謝されたり感謝されるような行動、発言をしたことがある人はいると思います。そんな時「ありがとう」この一言を伝えてみて下さい。お互い気持ち良くなっていくと思いませんか。さらに、その人の温かい心が見えてくると思います。この一言がたくさんの人々に使われれば、今よりも世の中が優しさであふれてくると私はこの体験を通して改めて感じました。